



**梶谷 真司 (KAJITANI Shinji)**

東京大学大学院総合文化研究科 教授

京都大学文学部卒業、  
京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程・博士課程修了。

---

帝京大学文学部・外国語学部助教授、東京大学大学院総合文化研究科 准教授を経て、2015年より現職。

専門分野は、哲学（特に現象学）、比較文化、医学史（特に日本の江戸から明治にかけて）。

現象学——特にハイデガー、およびヘルマン・シュミッツの〈新しい現象学〉——の立場から、世界における人間のあり方について、身体、感情、共同性、民俗、宗教などとの連関で研究してきた。またそうした人間存在を文化的・歴史的に具体化して捉えるために、江戸時代から明治時代にかけての日本の医療・育児についても研究している。近年は、哲学対話を通して、学校教育、地域コミュニティなどで、「共に考える場」を作る活動を行っている。

主な著作は、『新現象学運動』（共編、世界書院、1999）、『シュミッツ現象学の根本問題——身体と感情からの思索』（京都大学学術出版、2002）、「集合心性と異他性——民俗世界の現象学」（『雰囲気と集合心性』京都大学学術出版会、2001）、『考えるとはどういうことか——0歳から100歳までの哲学入門』（幻冬舎、2018）、他多数。